



## 第9回年会「エピジェネティクスと遺伝学」開催

第9回日本エピジェネティクス研究会年会在、5月25日～26日の2日間、東京一ツ橋にある学術総合センター 一橋講堂で開催されました。参加者は総勢380名で、2つの新学術領域研究からの支援と、3つの公益財団、22社の企業に協賛・展示をして頂きました。ポスター136題、一般講演16題、ショートトーク6題、さらに、奨励賞受賞者講演と次回年会長講演が行われました。

本年は「エピジェネティクスと遺伝学」をテーマとし、様々なモデル生物を使った研究を始め、基礎から応用まで、実験室から野外まで、多様で刺激的な講演が数多く発表されました。また、大会第1日目の夜に会場隣の如水会館で行われた懇親会には、多数の参加者に参加していただき、とても盛況な年会となりました。講演者の皆様、参加者の皆様、大変ありがとうございました。



### 奨励賞受賞者の表彰が行われました

本会の賞等選考委員会による厳正な審査の結果、若手研究者の中から、横浜市立大学 有田恭平先生(左写真の左)、中国科学院の三木大介先生(右写真の左)の2名が、本会奨励賞に選ばれ、受賞者講演の前に牛島俊和代表幹事(両方の写真右)による表彰が行われました。

**おめでとうございます!**



### 幹事会と総会が開かれました

- ▶5月25日に幹事会、26日に総会が行われました。
- ▶2016年の年会は、仲野徹幹事(大阪大学)を年会長として、5月19、20日に千里ライフサイエンスセンター(大阪)で開催される予定。詳細が決まりましたら、またお知らせいたします。
- ▶2017年の年会長には、眞貝洋一幹事(理化学研究所)が選出されました。



ポスター会場の様子



## 第9回年会を開催して

第9回日本エピジェネティクス研究会年会長 角谷 徹仁（国立遺伝学研究所）

第9回年会は「エピジェネティクスと遺伝学」をテーマとして、発生生物学だけでなく、クロマチン、染色体挙動や集団遺伝、進化、生態学まで含めた幅広い生命科学分野におけるエピジェネティクスの潜在力を感じられるような会をめざしました。

一般講演のスピーカーは、それぞれの方の力強い発表が印象的でした。酵母やショウジョウバエの分子遺伝学やカエル卵の無細胞系を使った研究、いくつかのモデル生物を使ったリプログラミング機構の研究、ヒトの癌のエピジェネティクスなど、それぞれの分野で大きく研究が進みつつあるのを実感しました。また、ショートトークや、その後のポスターセッションの活気から、この分野の若手研究者のいきおいを感じました。

組織委員、ショートトーク選定委員、座長の先生方をはじめ、多くの方々にご協力いただいたことを感謝いたします。また活発な議論をしていただいた参加者の方々に感謝いたします。仲野先生がオーガナイズされる第10回の大阪での年会も楽しみにしています。



### 情報を求めています！！

研究員・ポスドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年会に関するご意見・ご感想もよろしく願います。お近くの広報委員（中島欽一、梅澤明弘、角谷徹二、古関明彦、中山潤一各幹事）に気軽にe-mailください。

### 日本エピジェネティクス研究会事務局

東京医科歯科大学 医歯学総合研究科  
分子腫瘍医学分野内  
庶務担当幹事 湯浅保仁  
担当：阿部良子  
住所：〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45  
TEL:03-5803-5184  
E-mail: jse.monc@tmd.ac.jp



日本エピジェネティクス研究会  
平成27年度第1回幹事会 議事要旨

場所：学術総合センター一橋講堂

日時：平成27年5月25日（月）

出席者：牛島俊和、眞貝洋一、中島欽一、油谷浩幸、石野史敏、伊藤隆司、岩本和也、浦聖恵、角谷徹仁、金井弥栄、木村宏、古関明彦、佐々木裕之、塩見春彦、副島英伸、田嶋正二、中尾光善、中山潤一、仲野徹、畑田出穂、広瀬進、向井常博、村上洋太、吉田稔、湯浅保仁、久保田健夫（26名）

欠席者：生田宏一（委任状）、緒方勤（委任状）、小布施力史（委任状）、加藤忠史（委任状）、木下哲（委任状）、佐野浩（委任状）、塩田邦郎（委任状）、白鬚克彦（委任状）、胡桃坂仁志（委任状）、梅澤明弘、五十嵐和彦、押村光雄、間野博行（13名）

議事に先立ち、定足数に達していることを確認し了承された。

報告事項

- 平成26年度の事業について以下が報告された。
  - 第8回年会在塩田邦郎年会長のもと5月25-27日に東京にて開催された。
  - 幹事会が1回（5月25日）、総会が1回（5月26日）開催された。
  - 第10回（平成28年）年会長に仲野徹氏（大阪大学）が選出された。
- 庶務委員会より、会員数他の以下の報告がなされた。

平成26年末現在の会員数と会費納入状況

一般会員	386名（会費納入率65%）
学生会員	127名（会費納入率48%）
賛助会員	5社（会費納入率60%）

平成27年5月1日現在

一般会員	411名、学生会員	161名、賛助会員	5社（資料1）
------	-----------	-----------	---------
- 広報委員会より、お知らせの更新17回、求人案内12回及びニュースレター4報の発刊があった旨の報告がなされた。
- 第9回（平成27年）年会について角谷年会長より報告があった。
- 第10回（平成28年）年会の準備状況について仲野徹次期年会長から説明がなされた。
- 大阪大学蛋白質研究所、熊本大学発生医学研究所への要望書の発行が報告された。



#### 協議事項

1. 平成 26 年度決算について資料に基づいて説明がなされ、承認された。
2. 平成 27 年度の事業計画について説明がなされた。この中で、エピジェネティクス研究会のホームページをさらに充実したものにする（例えば、カードでの会費が振り込めるシステムを導入すること）の要望があり、業者を交えて、この点も含めて検討することになった。  
(後注：その後、m3.com へ HP を移管した場合、手数料 5%程度で HP でのカード決済が可能であることが判明した)
3. 平成 28 年度予算案について資料に基づいて説明がなされ、収入の部において会費収入の予想会員数と納入率の見込みの修正、支出の部において人件費（名簿管理、HP 管理）の増額が提案され、この修正をふまえて予算案が承認された。
4. 第 11 回（平成 29 年）年会会長として眞貝幹事が選出された。
5. 各種委員会委員について以下の改訂がなされることになった。
  - 1) 企画委員会の廃止
  - 2) 賞等選考委員会の委員の改選。具体的には発足時からの田嶋委員、金井委員、塩田委員が退任し、佐々木委員と吉田委員が留任。佐々木委員が委員長に就任し新規委員を推薦することになった。
6. 幹事の任期更新について審議された。具体的には平成 28 年度で任期が切れる幹事が多数（全 39 名中 28 名）おり、これを除いた少数幹事（11 名）で幹事の任期更新を審議することに問題があるのではないかと、との提起がなされた。これを受けて、次回更新時は止むを得ないものの、28 名の幹事を年会への参加状況等により半数にわけ、半数は任期更新を 1 年遅らせ、幹事の更新時期を分散させる形で進めることが提案され、了承された。なお、今回は幹事の追加はなされなかった。
7. 平成 27 年度奨励賞の受賞者の選出経過について賞等選考委員会から説明がなされ、了承された。また、「3 年の会員歴」とは累計でよく、その旨、募集要項に明記することとなった。
8. 年会参加助成があまり活用されていないことを受け、来年度の年会の HP で目立つように示すこと、「年会参加支援」の名称に変更すること、子育て中の参加者のつきそいの方（母親等）の旅費を認めること（このことを案内文に明記すること）が提案され、了承された。
9. 国際エピゲノムコンソーシアム (IHEC) 東京大会の詳細についての説明がなされ、エピジェネティクス研究会が後援することが承認された。後援の具体的方法として、優秀なポスターに JSE 賞を授与すること、参加者に旅費を支援することなどの案がだされ、年会の期間中に更に議論、その後、メール幹事会で決定することとした。

文責：久保田健夫